

■成果報告書

【AIAC 国際建築デザインスタジオ 2014】 9/18～9/19

2 日間に渡って、AIAC 国際建築デザインスタジオの成果発表と設計コンペを行いました。

18 日にはポスター設置を行いました。慶應からの参加者は 3 人でしたが、他の大学と並びに計 30 人程の作品を展示スペースに設置しました。他の学生も同時に設置を行っていたので、その間に彼らの作品について聞くのも勉強になりました。右上の写真は設置の様子です。国際的なスタジオコンペで、お互いに違った観点で成果物をつくりあげてきた中で、このような機会に意見交換や交流を行うことはお互いに刺激になったと思います。



19 日には、ジュリーの先生方が講評を行う間に学生たちとともに、ヴェネチア島全体のツアーに参加しました。民家の特徴や、ドゥオーモの歴史、聖堂の特徴等を視察することができました。ヴェネチア出身の建築家、カルロ・スカルパの作品も見に行きました。民家を美術館に改修した作品や、展示スペースを設けた作品など、主に改修を行った建築家です。右中央の写真は、カルロ・スカルパミュージアムの内装になります。水と接する部分が段になっており、非常に洗礼された空間ができていたのが印象的でした。実際にこれらの展示をみることは、写真で見るときと違った空間把握が



できたので、とても勉強になりました。ツアーが終了後は、再度展示スペースに戻ってきました。そこで、先生方からの最終講評会が開かれて、優秀作品の発表がありました。右下の写真がその様子です。結果、優秀賞が 7 作、最優秀賞が 1 作選ばれました。慶應大学からは「優秀賞」を 1 作品いただきました。先生によって評価基準が違っていたので、そ



これらの話をすべて消化するのは難しかったですが、私たちの作品について細かく聞く良い機会になったと思います。

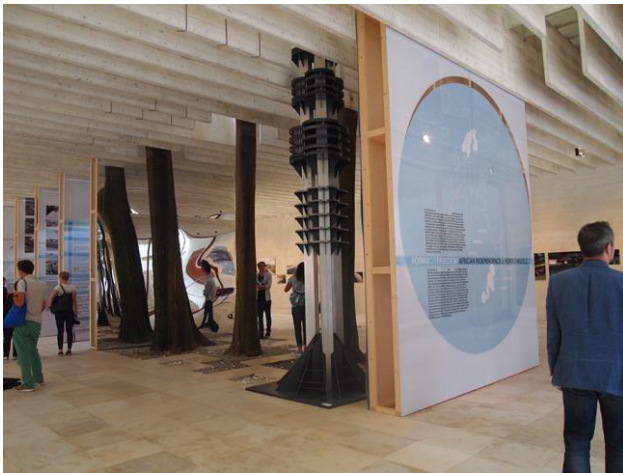
【ビエンナーレ展 見学】9/20～9/21

池田先生とギャロウェイ先生とビエンナーレに見学に行きました。



今年のビエンナーレのテーマは「fundamentals」でした。建築の要素で分けて展示をしていました。

左の写真は中世の時代の天井と現代の天井を比較した展示です。昔の天井は豪華に見えますが、現代の天井は設備がたくさんあってこの展示では昔の天井よりも複雑に見えます。現代の建物の天井は下から見るとシンプルに感じますが、実際見えないところでとても幅を取っていることを示していることが分かります。そのために部屋が狭くなっている現状があると示されていました。このように建築の廊下、窓、ファサード、ドア、手すりなどの展示があり、建築の要素について考えさせられるいい機会になりました。



2枚目の写真はバルコニーの展示の写真です。写真のカーペットは多数の人がプリントされていてバルコニーにいる気分を先生たちが味わっている写真です。バルコニーは昔から権力の誇示に使用されてきました。各国の権力者が、バルコニーに立って人々に挨拶する展示がありましたが、日本の権力者は力がないと書いてありましたが、天皇は象徴なので少し違う意味ではないのかと考えさせられました。



最後の写真は先生たちが一押しのお北館です。この建物の中に木が生えていて窓もすべて取り外すことのできる造りになっていました。各国の建物すべて素晴らしく有名な建築家の作品がたくさん見ることができてとてもいい経験になりました。

先生お二人と見学に行ったことで建築の説明をたくさんしていただいたので自分だけで行ったときの10倍勉強になったと思います。